

# 演劇シチュエーションカード 「劇札」とは？



「演劇フライヤー（演劇チラシ）を見ながら、自分勝手に、直観で、妄想で、オリジナルのストーリーを作りあげる」…といった遊びをやったことはありませんか？

「劇札」（げきふだ）は、その遊びをもっと簡単に、みんなで楽しめるように…と陸奥賢（観光家／コモンズ・デザイナー／社会実験者）が考案したものです。古今東西の演劇作品をリサーチして「演劇でよくあるシチュエーション（状況、境遇、展開）」を 96 枚のカードにしました（世の中の演劇の 9 割に、この劇札のシチュエーションは当てはまります）。

この「劇札」と演劇フライヤーを組み合わせると、いろんなオリジナルのストーリーが作りやすくなります。また「劇札」は「いつでも、どこでも、だれでもできる」というコモンズ・デザインで、オープンソースですので、自由にプリントアウト（A4 サイズ推奨）してご使用できます（文字が書かれていらない、白紙のものもダウンロードできます。これでみんなで新しい「劇札」を考案して作ることもできます）。

作劇のヒントにするもよし。演劇のワークショップに使うもよし。あなたなりの「劇札の活用法」「劇札遊び」を、ぜひとも考案してみてください。



企画・制作 | 陸奥賢 & 沖田みやこ  
イラスト・デザイン | 田中保帆  
協力 | 浄土宗大蓮寺塔頭應典院





## 「劇札遊び」の事例 「演劇フライヤー+劇札」

- 1 4人で1チームになり、それぞれ演劇フライヤー（チラシ）を用意します。  
※まだ観劇していない演劇フライヤー（チラシ）の方が想像力が広がるのでオススメです。

- 2 みんなでフライヤーに記載されている情報（タイトル、役者の写真、イラスト、コピー、あらすじなど）を読み取ります。

- 3 最初の1人目（Aさん）が「劇札」を無作為に選び、みんなに提示します。Aさんは、その劇札に書かれたシチュエーションとなるように、フライヤーの情報と組み合わせて、勝手に、妄想で、オリジナルのストーリーを作ります。



- 4 次の2人目（Bさん）が、同じように劇札を無作為に選び、みんなに提示します。Aさんの話を踏襲しながら、劇札と組み合わせて、Bさんも妄想のストーリーを膨らませます。

- 5 3人目（Cさん）も「劇札」を提示して、同じように劇札のシチュエーションになるように、前の人（Aさん、Bさん）の話を踏まえながら、オリジナルのストーリーを考えます。



- 6 4人目（Dさん）がラストです。Aさん、Bさん、Cさんの話を踏まえて、4枚目の「劇札」を出して、ラストシーンを考えて、妄想のオリジナルストーリーを完結させてください。最後の4人目（オチを担当）が大変です。順番に交代して、いろんな「演劇フライヤー+劇札」で、「作劇遊び」を楽しみましょう。

